

サイナスリフトのトラブル

— 術後感染のリカバリー —

野阪 泰弘

野阪口腔外科クリニック

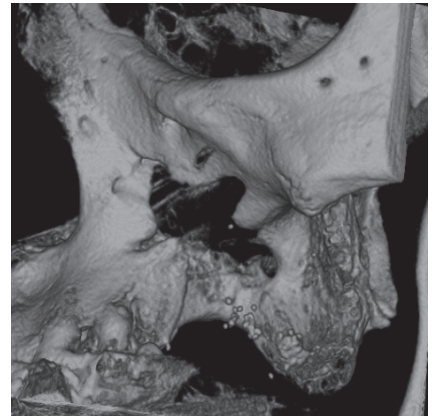
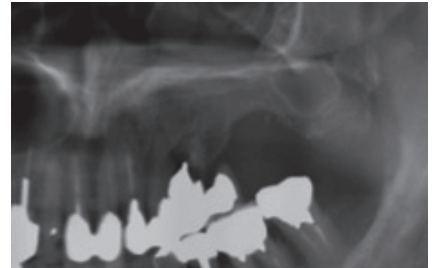


サイナスリフトは、インプラント治療における上顎洞底部の骨造成術で、インプラント治療の適応症の拡大に寄与しています。しかし、サイナスリフトで術後感染が起こった場合、上顎洞炎を惹起するため、歯科医院での対応が困難となり、口腔外科的あるいは耳鼻科的な治療が必要になります。また、患者に大きな肉体的および精神的な苦痛が生じるため、速やかな対応と確実なリカバリーが必要となります。さらに、サイナスリフトはインプラント治療のための骨造成術であるため、インプラント治療が達成できなければ、患者とのトラブルに発展する可能性があります。したがって、インプラント治療が達成できるリカバリー法を考慮すべきで、単なる上顎洞炎の治療では不十分と考えられます(図1,2)。一方、サイナスリフトには様々な骨補填材が使用されていますが、骨補填材の種類によって術後感染の経過に違いがあると演者は考えております。

本講演では、当院におけるサイナスリフトの術後感染症例を紹介し、適切なリカバリー法と安全な骨補填材について考察したいと思います。

図1. サイナスリフトの術後感染で、上顎洞根治術を受けた。

図2. 上顎洞根治術で、上顎洞前壁の骨が除去されている。



略 歴

1985年 大阪歯科大学 卒業
 1989年 大阪歯科大学大学院(口腔外科学専攻) 終了
 1991年 日本生命済生会付属日生病院・歯科口腔外科医長
 1995年 名古屋大学医学部口腔外科学講座・文部教官助手
 2000年 神戸市立西市民病院・歯科口腔外科医長
 2005年 野阪口腔外科クリニック・院長
 2014年 兵庫医科大学歯科口腔外科学講座・非常勤講師
 2015年 大阪歯科大学インプラント科・非常勤講師

講演に関する論文と著書

- 1) 野阪泰弘: サイナスフロアエレベーションの落とし穴. クインテッセンス出版株式会社. 東京, 2010.
- 2) Nosaka Y: Sinus floor elevation Avoiding pitfalls using cone-beam CT, Quintessence, UK, 2014.
- 3) Nosaka Y, Nosaka H, Arai Y: Complications of postoperative swelling of the maxillary sinus membrane after sinus floor augmentation. J Oral Science & Rehabilitation, 2015;1(1): 26 - 33.
- 4) 岸本裕允, 吉竹賢祐, 野阪泰弘, 他: インプラント外科 Q&A67. 医歯薬出版株式会社. 東京, 2015.

memo